

産業常任委員会の記録

(ふるさと創生課)

招 集 年 月 日	令和4年9月7日（水）
招 集 の 場 所	松野町議会議場
開 会	9月13日（火） 午前10時08分
閉 会	同 上 午前10時58分
出 席 委 員	関本 豊、山下 智恵、村尾 重利、赤松 紀幸、加藤 康幸、 森岡 健治、近藤 由美子
欠 席 委 員	
付 議 事 件 説 明 の た め 出 席 した者の職氏名	町長 坂本 浩、副町長 八十島 温夫 課長 井上 靖、課長補佐 石田 和弘、課長補佐 土居 孝二郎 係長 兵頭 美和
職務のため出席 した者の職氏名	議会事務局長 大谷 吉廣
付 議 事 件	1 認定第1号 令和3年度松野町一般会計歳入歳出決算の認定に ついて ◎歳入 （該当分） ◎歳出 5款 労働費 7款 商工費

関 本 委 員 長	ただいまから、ふるさと創生課所管の付託案件の審査を行います。 認定第1号「令和3年度松野町一般会計歳入歳出決算の認定について」、歳入該当分、歳出5款労働費、7款商工費、ふるさと創生課所管分の審査を行います。 担当課長に説明を求めます。
井 上 課 長	認定第1号、令和3年度松野町一般会計歳入歳出決算の認定について、ふるさと創生課の所管分を説明いたします。 成果説明書は61ページ、決算書は79ページをお開きください。 5款、1項、1目、労働諸費の決算は0円です。 成果説明書は73ページ、決算書は87ページをお開きいただいたらと思います。 7款、1項、1目、商工総務費の決算は、15,863,418円でありまして、職員の人件費、ふるさと創生課内に設置しております消費生活相談窓口の非常勤相談員1名の報酬等が主なものです。 なお、この消費生活相談窓口には、年間で24件の相談が寄せられており、そのほかにも防災無線等による広報周知活動、相談員スキルアップ研修会の開催、松野町地域包括支援センターとの連携による多世代に向けた消費生活相談や悪徳商法の被害防止に努めているところでございます。 続いて成果説明書は74ページ、決算書は87ページをお開きいただいたらと思います。 2目商工振興費の決算は、44,129,320円です。 こちらにつきましては8つの項目に分けて説明をいたします。 まず1番目には、松野町商工会との連携によるまちづくりといたしましては、法定会員数105名、定款会員数10名、特別会員5人、合計120名の会員を有する松野町商工会と連携して、各種補助制度を活用しながらまちづくりに取り組んでいます。 令和3年度におきましては、商工会の組織力の強化等に資するための団体育成補助金5,000千円を支出しているほか、商工会が中心となって地域の賑わい創出に取り組み、商工業の活性化につなげる事業として、年末年始の駅前通りのイルミネーション、町内各所での花

いっぱい運動や清掃活動、特に商工会青年部、ロードサポーターにもなっただきまして奉仕活動、懸命に取り組んでいただいております。

本日、中四国の商工会青年部の大会にも出場していただいております。経験もつまれているようです。

また、松丸駅前での「軽トラ市」を3回開催等に取り組んだ費用として地域総合振興事業に補助金650千円を支出しております。

また、新型コロナウイルス感染症の影響による商工業対策として消費喚起キャンペーン事業に補助金5,421,476円を支出しております。

こちらの成果といたしましては、抽選券発行ベースで152,505千円の消費喚起を得ております。

次に、2番目に中小企業振興資金の融資斡旋と3番目の利子補給補助金につきましてご説明いたします。

企業の育成振興を図ることを目的に融資需要に対応するため、松野町中小企業振興資金融資条例に基づき融資斡旋を行いました。

また、利子補給につきましては、中小企業振興資金、日本政策金融公庫資金の制度資金の借入者に対しまして規程の利子補給を行ったものであります。

22件、761,900円の利子補給をしております。

中小企業振興資金完済者の保証料補給に1件、91,400円、感染症対策資金利子補給補助金に3事業者274,732円の利子補給を行っております。

なお、中小企業振興資金利子補給件数10件と日本政策金融公庫資金利子補給件数13件とありますが、合計件数が22件となっておりますのは、2つの制度を合わせて活用している方がいる関係で、件数としては22件と標記をしていただいております。

続いて成果説明書は75ページになります。

次に、4番目、被災中小企業者等復旧資金融資利子補給補助金につきましては、平成30年7月豪雨災害で被災し、事業活動に支障の生じた事業者が復旧に向けて借り入れた融資の利子に対しまして、6

件、１２６，９００円の利子補給を行っております。

次に、項目５番目の松野町新型コロナウイルス感染症対策緊急地域雇用維持助成金につきましては、感染症拡大の影響により一時的に休業を余儀なくされながらも、従業員の雇用継続を図ろうとする事業者に対しまして、雇用の安定及び事業活動の継続を図るため助成したもので、１事業者に３３９，８１５円を国・県・町と連携しまして支払いをしています。

次に、６番目、松野町新型コロナウイルス感染症対策事業継続支援補助金につきましては、感染症拡大の影響によりまして、事業活動に影響を受けた事業者の事業継続を支援するため、売り上げ減少率３０％以上の２０事業者に、５，６５０，４９８円の補助金交付を行いました。

次に、７番目、松野町新型コロナウイルス感染症対策営業時間短縮等協力補助金につきましては、感染症拡大防止のため、酒類を提供する飲食店に３６日間の営業時間の短縮を要請させていただきました。

この要請に協力いただいた７事業者に対しまして補助金、６，３００，０００円を助成したものです。

次に、８番目、松野町新型コロナウイルス感染症対策中小企業者応援補助金につきましては、感染症拡大の影響により事業収入が大きく減少する中、感染拡大を予防しながら事業継続に取り組む事業者に対しまして、松野町と愛媛県が連携しまして応援補助金を支出したものでございます。

２回やったわけですが、第１弾で３０事業者、３，９００千円の給付、第２弾で４１事業者、９，５００千円の給付を行っているところでございます。

特に第２弾に関しましては農業者についても給付の対象としたところでございます。

成果説明書７６ページ、決算書は８９ページからになります。

３目観光費につきましては、１６８，６０２，８９３円の決算額です。

こちらは９の項目に分類して説明をいたします。

	まず、1 番目には、住民との協働による観光振興プロジェクトの実施についてでございますが、1 件の事業を昨年度に採択し、2 4 9, 0 0 0 円の補助金を支出しているところでございます。 次に、2 番目、予土地域連携における観光交流による地域活性化施策の実施についてでございますが、こちらにつきましては、松野四万十サイクリング2 0 2 1 を開催し、道の駅虹の森公園から道の駅とおわまでのサイクリングをしております。 途中、予土地域の自然景観を活かしながら、また、地域の特産品や料理、そして、道の駅とおわで新たに生まれましたジップラインというアクティビティ、こちらを活かしたサイクリングをしました。 また、復路におきましては J R 四国様と連携しましてサイクルトレインを運行して、自転車を列車に積んで帰るという J R 予土線利用促進を意識したイベントを創りあげております。 なお、残念ながら昨年度もコロナウイルスの関係で自転車業界で全国的にも有名になりました、松野四万十バイクレース、マウンテンバイク大会です。 通称 M S B R や予土線沿線を楽しめる2 リバービューライド、地域の歴史文化資源を活かした森の国戦国武者伝走につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響で開催が中止となりました。 なお、来る令和4 年度につきましては、松野四万十バイクレース、松野滑床サイクリング、森の国戦国武者伝走について開催の方向で準備を進めているところでございます。 次に、3 番目、J R 四国と連携した観光交流施策の実施では、J R 予土線を貴重な地域資源として松野町は捉えておりまして、予土線利用促進対策協議会や J R 四国、関係機関団体と連携し、J R 松丸駅内での観光案内や松野町紹介映像の放映、J R 予土線において自転車の混乗事業であるサイクルトレイン運行支援、小中学生等の遠足等の運賃補助など沿線の集客力向上を目指した事業を展開させていただいております。 続いて成果説明書は7 6 ページになります。 項目4 番目、滑床まつりの実施では、本来、商工会やまちづくり青
--	---

年会議が中心となった実行委員会形式で、各主催団体の自主的な企画運営によって、7月から8月の期間に各種イベントを開催していますが、昨年度につきましても、新型コロナウイルス感染症拡大の防止の観点から、滑床溪谷でのあまご釣り大会のみの開催にとどまっておりますが、こちらにつきまして補助金30,000円を支出いたしております。

次に成果説明書77ページです。

次に、項目5番目、観光PRの推進につきましては、報道機関様や雑誌、専門誌等に積極的にアプローチを重ね、観光情報の発信に努めたほか、インターネット、そしてSNS等の情報伝達手段を使ったタイムリーな観光情報の提供につとめるとともに、PRノベルティの制作等によって、誘客促進を図っているところでございます。

次に、項目6番目、観光施設の管理運営につきまして説明いたします。

まずは、町出資法人の株式会社まちづくり松野の体制強化と販売力強化に資するため、当社におきまして専務取締役総支配人を設置したところでございます。

次に、施設等の改修、修繕につきましては、成果説明書に記載されているとおりでございますが、主なものといたしましては、アの森の国ぽっぽ温泉外壁修繕や、エの森の国ぽっぽ温泉明治の湯ドライサウナヒーター修繕などを実施しているところでございます。

次に、町有の観光施設の管理に指定管理や制度を採用し、その指定管理料を支払っているところでございます。

NPO法人森の国ネットが管理する駅の観光案内所へ3,800千円、滑床万年荘へ5,400千円、株式会社まちづくり松野が管理する河川公園施設及び森の国ファームへ45,500千円、株式会社トモニーえひめが管理をしておりました、ふれあい交流館温浴部門、森の国ぽっぽ温泉なんですが、18,415千円を歳出しているところでございます。

次に、観光施設の維持管理に係る主な費用につきましては、虹の森公園樹木管理委託料に4,290千円、これにつきましてはカワウソ

舎と同時に施工させていただきまして、財源といたしましてはふるさと応援基金言いる、ふるさと納税を充てさせていただいております。

県境休憩所トイレ清掃、葛川の国道沿いある分です。２０８千円、森の国ぽっぽ温泉配管滅菌委託１，２１０千円、駅連絡通路施錠管理委託料２００千円、国立公園清掃活動事業委託料４２８，１７０円などを支出しているところでございます。

次に成果説明書７８ページです。

昭和３０年より年々と管理しております滑床養魚場の管理でございますが、感染症拡大による厳しい販売環境下ではありましたが、アマゴとニジマス、鮎の養殖を中心に、近隣の宿泊施設への販売に取り組んでおります。

そのほか、愛媛県水産研究センター栽培資源研究所との協働による海面養殖用のアマゴ・ニジマスの試験養殖や、成長過程の研究を実施したところでございます。

肝心の滑床養魚場の収支状況ですが、表にもありますように、総収入２，２３６，２９９円、対する支出は３，７０４，６９７円であり、収支差額はマイナス１，４６８，３９８円という状況になっております。

若干、令和２年度に比べて収支状況が悪くなっている状況であります。これを改善できるよう令和４年度においては新商品の開発や新たな販路開拓に繋がる商品開発、そして実践での販路開拓に取り組んで参りたいと今、奮闘中でございます。

次に、施設の改修や整備についてでございますが、総額４８，１１４，３４２円支出しております。

その主なものとして、道の駅虹の森公園おさかな館カワウソ舎整備工事費用として７，７１８千円、こちらはふるさと納税応援基金からの繰り入れで支出しているものです。

森の国ファーム多目的広場等整備工事に１０，５７５，４００円、滑床キャンプ場炊飯棟整備工事に１７，７４３千円を支出しております。

また、感染症対策臨時交付金を活用しまして森の国ぽっぽ温泉非接

触型エレベーター改修工事として7,634千円などを実施しているところでございます。

次に、項目7番、備品購入費につきましては、総額6,514,187円でありまして、その主なものとしまして、農業公園多目的広場備品購入費用として、ガスグリルと各種備品に1,194,800円、J R松丸駅の観光案内所コインロッカーを設置しまして、151,800円、滑床養魚場清掃用高圧洗浄機に164,340円、イーバイク購入に4,915,432円、こちらにつきましてはコロナウイルス感染症対策臨時交付金を充てているところでございます。

次に成果説明書79ページ、項目8番、各種団体と連携した観光交流施策の推進では、えひめ南予きずな博実行委員会や旅南予協議会、愛媛県との連携をはじめ、観光諸団体、自然公園関係の負担金のほか、近隣自治体と連携して広域的に観光事業を推進するため、予土県境地域連携実行委員会や南予地域活性化イベント事業、道の駅の集まりであります、奥伊予街道七駅物語事業推進協議会などに対し、負担金や会費を支出しているところでございます。

続いて、9番目、地域おこし協力隊の導入につきましては、観光まちづくり分野の協力隊員4名が活動しておりまして、それぞれの隊員が地域資源の掘り起こしや観光資源のネットワーク化を中心に活動しております。

また、地域住民との交流・連携しながら地域活性化に取り組みでいるところでございます。

以上、歳出予算についての説明を終わります。

続きまして、本課の関係する歳入について主なものについてご説明申し上げます。

決算書17ページをお開きください。

13款、1項、3目、1節で観光使用料139,549円ございますが、放流用アユの稚魚の養魚場使用料と釣り堀用貸し竿の使用料になります。

決算書23ページをお開きください。

14款、2項、1目、4節、新型コロナウイルス感染症対応地方創

関本委員長 山下委員	生臨時交付金のうち、ふるさと創生課分としまして、３４，７６１，５０２円を歳入決算しております。 決算書２９ページをお開きください。 １５款、２項、８目、１節、商工振興費補助金としまして７，９８０，０００円は、愛媛県と松野町が連携して取り組んだ、感染症対策時短営業協力金事業と愛媛版応援金事業の財源としているものでございます。 続いて決算書３７ページをお開きいただいたらと思います。 ２０款、４項、１目、１８節です。 国立公園清掃活動事業助成金として４１６，１７０円は国立公園清掃活動推進の財源として受け入れたものでございます。 最後に町債でございます。 決算書３９ページをお開きいただいたらと思います。 ２１款、１項、１目、１節、過疎対策事業債では、ふるさと創生課分としましては、ハード事業分２７，６００千円、内容としましては森の国ファーム多目的広場等整備事業、滑床山岳レクリエーション施設整備事業としてキャンプ場の炊飯棟、こちらに充てております。 ソフト事業分としましては５，８００千円を借り入れ充当しておりますが、観光ＰＲ交流促進事業、予土県境地域連携交流促進事業等が対象事業となります。 以上が、認定第１号、令和３年度松野町一般会計歳入歳出決算、ふるさと創生課分についての説明です。 よろしくご審議賜りご承認いただくようお願いいたします。 担当課長の説明が終わりました。 委員からの質問を許します。 観光費について、お伺いいたします。 観光施設等に観光ＰＲのために、様々な看板等、観光ＰＲのために設置されておられると思うんですけれども、河川公園のふれあいゾーン入り口にある緑の大きな看板、御存じでしょうか。 私も、町民の方から指摘されるまでちょっと気がつかなかったんですけれども、その入り口に立派な緑の大きな看板が立っております
--------------------------	--

井 上 課 長	が、残念、周囲に樹木が生い茂って、全く行き交う車両とか人々に目に留まってもらうためにあれほどの大きな看板立てたんだろうなと思っておるんですけれども、全く見えない状況になっておりまして、あれでは何のために看板を立てているのか分からない、そういった御指摘がありました。 町内至るところ、要所要所に、松野町の商店街であるとか、ぽっぽ温泉であるとかそういった案内版があるんですけれども、そういったところ、今一度、御点検をいただきまして、しっかりと行き交う車両にもPRできるような形、それと町外になるんですけれども、三角ぼうしの大きな交差点のところにも、松野町へようこそという看板があると思います。 そちらの看板もかなり古びておりまして、あれではちょっと恥ずかしいと、そういった御指摘もあります。 先ほども言いましたけれども、町内各所にある看板については、きれいにもうちょっと整備をされて、松野町、どうぞ来てくださいというような、そういった風景にしていきたいなと思います。 まず、それについてよろしくお願いします。 山下委員さんの御指摘、即、身に染みているところでございます。 まず虹の森公園のふれあいゾーンの入り口の看板、商工会の看板だと思うんですが、間違いはないですね。 木が生い茂っておりますので、またそのあたり早急に剪定等を施しまして、看板見えるようにしていきたいと思います。 あと、御指摘のありました町内各所にある、また町外にもある看板、案内標識たくさんございます。 令和4年度においても、年次的に、看板をやり替える予算を確保させていただいておりますので、早急に看板のやり直しもやっていきたいと思います。 その中で、御指摘のとおり三角ぼうしの交差点、鬼北町の三差路の大きな看板につきまして、今年、実施予定でございます。
---------	--

山 下 委 員	今、盤面の内容について検討を重ねているところです。 少し今の時代、こちら松野町ですっていう看板っていうのは、意外と皆さん、車で来られる方カーナビゲーションがあったりとか、御自宅を出る前、いわゆる発地の時点で、よく調べ上げてこられるので、どちらかといえば道案内っていう要素よりも、少しメッセージ性のあるような要素、こういったもので松野町にどうぞ来てくださいますか、松野町の町の理念というか、方針というか、そういったもので表現をして、松野町をPRしていくっていう、手法でやってはどうかと今検討しておりますので、今しばらくお待ちいただければと思います。 早急に取りかかりたいと思います。 また、今年度、積み残しました案内標識、看板等につきましても、年次計画を立てながら、予算を確保させていただいて、取り組みたいと思っておりますのでどうぞ、今後とも、チェックのほう、よろしく願いいたします。 今ほどの答弁を聞いて安心はいたしました。 松野町にはたくさんの観光施設、あるいは観光資源、また松野町にようこそという、すばらしい町民たちがおります。 ぜひともたくさんの人に松野町に来ていただいて、やっぱり松野町はすごいなと言ってもらえるような、そういった看板になることを期待したいと思います。 次に再三、苦言を言うようで申し訳ないんですけども、森の国ファームの多目的広場の整備工事に、1千57万5,400円、それに対して、そのバーベキュー的な施設も兼ねるということで、様々な備品も購入しております。 しかし残念ながら、あまり利用されていないようにお見受けしておりますが、この運営方法について、見直しが必要なんではないかと考えております。 あるいは、専門的な人材育成、あるいはその運営方法、あるいはタ
---------	---

井 上 課 長	ーゲットの見直しであるとか、関係団体との連携であるとか、そういったこと等々、もう一度そのスタート地点に立って、立派な多目的ファームがもっとももっとたくさんの町内外の方に利用されるような、そういったことを、期待しておるんですけれどもその点についてお伺いいたします。 ただいま引き続き山下委員さんの御質問、いわゆるバーベキューテラス、バーベキューガーデンの活用についてでございますが、整備以来、現在のところ、まだ８０名の方しか御利用いただいております。 ５月６月７月８月、９月はまたちょっと数字つかんでないですが、４ヶ月でまだ８０名の方です。 現在のところ、あまりＰＲも上手に出来ておらず、実はあそこは貸しスペースとしての活用も出来ますし、道の駅虹の森公園のほうで、食材も用意していただける、手ぶらで来てバーベキューもできる、こういった２つの通りのやり方があるんですが、今のところＰＲ不足によって、まだまだ活用が出来てないところ、すごく反省をしているところでございます。 ただ、今、夏が終わり、秋になって、バーベキューには絶好のシーズンになってきているところです。 少しずつではありますが、町内に働きかけ等を行った結果、来る１０月には、あそこのスペースを使って、今高校生たちが、松丸高校プロジェクトといって、私たち立ハッシュタグ松野イズム高校っていうのを取り組んでおります。 その未来の大人たちが、あそこを借りて、音楽祭をやろうということをお計画していただいております。 それをやることによって、ここバーベキュースペースとして使えるんだっていう、非常に認知度を上げる契機になるんじゃないかなという期待をしているところです。 また、少しずつではありますが、旅行代理店様、ツアーエージェント様ですね、そういったところに営業をしている結果、松山の企業様が
---------	---

社員旅行として50名程度、あそこのバーベキューテラスを使っているだけのようなことも、予約が少しずつ入ってきているところです。

ただ、これはこれからどんどん営業活動をして、あそこの認知度をどんどん上げていくっていう作業の1つで、少しずつお客様が入ってきているという状況になります。

ですが、これだけではやはり、あそこさらにもっと多目的というか、多様な使い方ができるというところで、御指摘をしていただきましたように、いわゆるスマートバーベキューという、本格的なバーベキューをできるような人材の育成を、道の駅の中でもしていかなといけないという話を、株式会社まちづくり松野の中ではいただいております。

またその辺りの専門的な研修を受けたり、検定を受けなければならないと思いますので、こちらについて、また株式会社まちづくり松野のほうでも、恐らく人材育成の観点から、そういう資格も取得していくんだらうなということを促して参りたいと思います。

また町内には、バーベキューを切り口に、地域の活性化に取り組んでおります、てまひままつのバーベキュー協会もございます。

また、駅前にはバーベキュー侍という方が、民宿等も営んでおります。

こういった関係の団体様とも連携をしながら、多様なバーベキューの提供ができるスペースとして、今後ですねより一層、季節もよくなってきますから、営業活動に努めて参りたいと思っております。

まず、現在のところ、その大きな2つのお客様が来る機会が出来つつありますので、それを契機に、各種報道機関様等にも御紹介いただきながら、様々な手法を用いて、バーベキューガーデンの利用率どんどん上げて参りたいと思っております。

今後各種団体、関係の皆様にもお願いも行くことがあると思いますので、その際、行政のほうとしましても一緒になってお願い、そして有効活用について考えて参りたいと思っておりますので、引き続き御指

山 下 委 員	導賜ればありがたいと思っております。 よろしくお願いいたします。 今ほどの説明の中で、まさしく多目的に利用されるということは、大変喜ばしいことであると思います。 私の私見なんですけれども、あまりその活用されないということは、使い勝手が悪いのではないかなと、ちょっと思っております。 どういった方に、どういった利用をしてもらうのかということで、非常にきれいで、私が見たところ物すごくいいなというような施設であるにもかかわらず余り利用されないということは、やはりその、利用する時間帯であるとか、利用料金であるとか、原因をはっきり、そこはしっかりと検討していただけたらいいなと思うんですけれども、そういったことも含めまして、やはりもう一度、ゼロからちょっと考え直す必要があるかなと思っております。 今ほどの課長さんの説明では、何とかしたいという、そういった思いも十分伝わりましたので、今後、多目的ファームの活用については、大変期待しておりますので、ぜひとも御尽力をよろしくお願いいたしますまして、質問を終わります。
村 尾 委 員	大変、きめ細かな対応をされておまして、関係機関の努力もあつたりで、それなりの成果が上がっておるということは評価ができるのではないかなと思います。 そこで1つ問題として感じますが、先般、過疎地域の振興に関わる人材確保、育成に関する調査研究、概要版を全国過疎地域連盟がお出しになっております。 その中で、特におっしゃっておるのが、住民を主体として捉えていくことが重要だと。 つまり、公益法人松野町の場合はその全てが施設が公益、つまり行政が支援をして作って、運営をしておるということであるんですが、残念ながら、人材、おらが社長をやっちゃろかと。それから、私がこのことについて、勉強をして取り組んでみたいと、いうことが、やや

井 上 課 長	遅れておりまして、その行政のほうが先に出ていくということから、ちょっとその辺に、ぎくしゃくする問題が出ておるんじゃないかなという気がします。 成果表を見てみましても、その中身についてちょっと触れてあることが少ないんじゃないかなという感じを受けます。 それで、もともと観光振興の基本はその地域に経済的なその条件が整っておって、民間の資本が入ってきて、利益が上がる状態であれば、おのずとその地域は、観光事業で発展するわけですが、残念ながら民間の資本を入れても、利益が出ないということから、こういった国がいろんな施策を入れまして、採算性の底上げをしておるというのが現実ではないかなと思います。 それで、有名な言葉に山本五十六が言ったのは、「教えてみてやらせてみて、褒めてやらねば人が育たない」ということを言ったそうであります。 今でも社訓に利用されておる企業が相当あるそうですが、そういった中で、やらせてみてというのが、なかなかやってやろうという人が出ないところから、先ほど言いましたように混乱する原因かなと思っております。 それでその人材をどうやって育てていくのか、そしてやる気を起こす人をどのようにして見つけていくのかということが、大きな課題なんです。これは言うは安くてなかなか至難なことで、どこの自治体も苦勞をしておるんじゃないかなと思います。 そういったことでひとつ時間をかけて、今の観光施設、そしていろんな商工業の取組について、住民の皆さんと話し合いをしてみる、そういった機会を作っていく必要があるんじゃないかなと思うんですが、その取組についてのお考えがあれば、お尋ねをしたらと思います。 村尾委員さんの質問にお答えをさせていただいたらと思います。 これはそもそもの日本の観光政策の形成というか、日本の観光って、ヨーロッパとか、諸外国と明らかに違う点が1点あるかと私は
---------	---

いつも考えております。

というのがどうしても日本の観光行政、主導、松野町だけでなく、日本全国、政府もそうだと思うんですけど、行政主導っていう何かもともとのベースにあるのではないかなというのが、考えております。

どちらかといえば先に、政府が投資をして、そこをベースに、事業者がどんどん育っていくっていう素地っていうのが、やっぱり諸外国と比べて、そこが大きな違いがあるのかなということを常々思っています。

そういったところで、やっぱり1番大事なところが観光になっていくというか、観光で、産業というか地域を作っていくっていうんじゃないかと、観光を切り口に、地域の課題を解決していくっていうのが、私たちが目指す本来のところじゃないかなと思っています。

観光を伸ばすんじゃないかと、観光を切り口にして、私たちの松野町の地域の課題を解決していくということが大事なんかなと、今、思っています。

その中で人材育成、次の時代を担う人材育成というのは、すごく重要なポイントになろうと思います。

先日の総務委員会の折にも少し触れさせていただいたんですが、今、松野町には、高校はないけど高校生がいます。いわゆるもう間もなく大人であります。未来の大人です。

松野中学校までは小中学校、義務教育の過程において、先生がた、地域の皆様が必死になって、子供たちのキャリア感を醸成して、中学校3年の時には、株式会社松野中学校という形で、成果を表現してもらっています。

ただ、そのあと、社会人になる前、大学に進学前の大事な3年間を松野町から1日の3分の1以上の時間外に出てしまいます。

ふるさと創生課っていうのは、観光部門があったり、企画部門、両方ありますので、そこは課題だねということで、前から捉えとって、令和4年、今年から、その間の高校生をターゲットにした人材育成

村 尾 委 員 森 岡 委 員	の部分、人材育成というかももう自らが動いて、起業家教育を受けた高校生が、実際自分たちがもうやってみろと、というところで、今取組をさせているところです。 で、先ほど山下委員さんの御質問にもお答えした中の、森の国音楽祭を復活したいっていうのも、彼らの1つの表現の方法でありますし、宿泊業を経営してみたいっていうのも彼らの表現方法、今年度中には、法人化していこうと。その準備をしていくっていうこともやっています。 これはもう、実践の人材育成だと私は思っています。これを今後、切れ目なく、この事業に取り組むことによって、小学生、中学生、高校生のうちに、しっかりと松野町の資源を理解させ、そしてそれをどうやって活用したら、僕らの、私たちの住む町は、10年後50年後100年後続いていくのか、そういったことをしっかりと高校生の間に、表現が悪いんですけど、すり込んでいくっていうこと。これをしたいと思います。 おのずとこれで、過疎問題も若干ながら解決していく1つの手だてになるんじゃないかと思っています。 先ほど山本五十六さんの、お言葉がありました。 そのあとに続く言葉が実はありまして、「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず」という言葉が続くと思います。 まさに人材育成のことを、山本五十六さんも当時、気づいておっしゃっていたんだろうなと思います。 こういった考えをもとに、この観光事業にも、取り組んで参りたいと思っていますんで、今後ともよろしく御指導をお願いいたします。 はい、了解です。 成果説明書で、ぽっぽ温泉のふれあい交流館前のインターロッキング修繕されておりますが、また、片一方すれば片一方が、という状況が、生まれてます。 もう何回もこの辺が傷んでは修繕と、もうぼちぼち玄関口ですんで
----------------------------	---

坂 本 町 長	インターロッキングじゃなくって、例えばカラー舗装なり、いろんな今はありますが、その辺、町長どうですかね。 玄関口、ぼっぱ温泉を大事にしなければいけない、その辺もあるし、町の中心であります。 その辺ちょっと今の状況では、何か見苦しいんじゃないかなと思っておりますが、ひとつどうぞ、検討をお願いいたしたい。 はい御指摘のとおり今回はちょっと水道管が破裂をしまして、修理のためにインターロッキングを一部剥がしております。 御指摘のとおり再々こう手を入れないかんということで、根本的に改修するのがいいのか、その場合はどういった工法をしたらいいのか。 ちょっと検討させていただきます。
森 岡 委 員 関 本 委 員 長	どうぞよろしくをお願いいたします。 他にありませんか。 質問が無いようであれば、採決に移ります。 ただいま審査しております、認定第1号について、原案のとおり御承認いただけますか。
関 本 委 員 長	(異議なしの声) 賛成全員です。 したがって、当委員会は、認定第1号「令和3年度松野町一般会計歳入歳出決算の認定について」、歳入該当分、歳出5款労働費、7款商工費ふるさと創生課所管分については、原案のとおり認定すべきものと決定いたしました。 会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。 令和4年10月18日 松野町議会産業常任委員会委員長 関本 豊